

「自分にはできない。」自分で自分の限界を決め、諦めてしまうこと、皆さんはありますか。私は生まれた時から聴力がほとんどありません。「難聴」という障害です。日々の生活には補聴器が欠かせません。

今まで私は「難聴」という壁が立ちはだかった時、物事への挑戦を恐れ、逃げてしまうことがありました。その一つがスイミングです。補聴器を外さなければならず、コーチの指導は私の耳にほとんど届きません。最初は良かったもののレベルが上がるにつれ、習得が困難になりました。そして、「限界だ。」と諦めて辞めてしまったのです。自分が逃げたことを他の人が易々とこなしているのを見ると悔しさがこみ上げてきました。しかし、「自分には到底無理だろう。」という気持ちのほうがいっつも大きくなってしまっていました。

中二のある日、学校からの案内を見て、二泊三日のイングリッシュキャンプへ参加したいと思いました。なぜなら、英語が好きだったこともありですが、何より自分を変えたいと強く思ったからです。当然、参加者に知り合いません。その中で私は英語力の向上はもろろんのこと、諦めない強い心をもてるようになりたいと考えました。しかし、その挑戦は私にとって容易なことではありませんでした。初日から「リスニング」という壁にぶつかりました。難聴の私には聞き分けが困難な発音が多くあります。覚悟していたとはいえ、私の耳は英語の指示についていけないことが多かったのです。「今、何て言ったの?」「どうしよう。分からない。」そう思ったことも一度や二度ではありません。そんな私を救ったのは、

「大丈夫?分からなかったら何でも聞いて。」

という同じクラスになった仲間の言葉でした。その仲間はその日初対面だったにもかかわらず、私を気遣い、声をかけてくれたのです。私が聞き取れず何度聞き返しても嫌な顔一つせず説明してくれました。この時手を差し伸べてくれた仲間に助けられ、「リスニング」という壁を乗り越えることができました。

「ありがとう。」という言葉は私はこのキャンプで何度言ったことでしょうか。私は今まで助けられることに後ろめたさを感じて、「迷惑をかけるから。」と挑戦することを躊躇してしまふことが多くありました。しかし、キャンプ中私の前に難聴という壁が立ちはだかって、その仲間をはじめ、周りの人が手を差し伸べてくれました。その温かい心に支えられたからこそ、私は無事キャンプの全日程を終えることができました。

私にとって、「人の支え」とは欠かせないものです。私が今ここに立っていられるのも今まで沢山の人の協力があり、壁を乗り越えられたからです。私だけではありません。皆さんもそうではないでしょうか。人は誰でも一人では生きていきません。生まれてから今まで必ず人と関わり合いながら生きています。誰かに支えられ、時には自分が支え、その中で成長し強くなります。

人生には幾多の壁があります。もし越えられそうにない壁が現れた時、自分の限界を決め、諦めてしまうのは勿体ないことだとキャンプでの経験を通して学びました。越えられそうにない壁が立ちはだかった時、人はそれを越えられない理由、つまり言い訳を探します。その言い訳で心が一杯になっていては、この先前進することはできません。壁と向き合ってこそ、成長した自分に会えるのです。

だから私は、「難聴」を理由にもう逃げることはしません。時に、人に支えられながらも挑戦し続けたいと思います。そして周りの人への感謝の気持ちを忘れず、今まで沢山の人が支えられてきた分、将来はそれ以上に人の役に立てる人間になります。これからの人生でも色々な壁が私の前に現れることでしょう。それでも挑戦を恐れずに、一つ一つ壁を乗り越えていこうと思います。そして自分らしく、壁のその先にある未来へと歩んでいきます。